

ニセコ・羊蹄山麓の地域資源である雪・農・食を活用した 新商品及び観光コンテンツの開発

NPO法人WAOニセコ羊蹄再発見の会

1 当法人について

当法人は、ニセコ羊蹄山を囲む地域において今ある豊かな観光資源を有効に活用する方策を調査・企画し、この地域の自然環境保護とその有効活用できる事業の実施により、よりよい環境作りと地域の活性化に寄与することを目的として設立されました。2013年からは、都市農村交流を行う活動を展開し、地域の特産品を活用した新商品の開発・販売を行い、地域の観光資源の開発を推進しています。

2 活動の目的

倶知安町及び周辺のニセコ・羊蹄山麓エリアにおける雪や農業、食を中心とした観光事業が基幹産業として発展するために、その地域にしかない新商品の開発や、地域の生業を体験できる体験型ツーリズムなどの観光コンテンツの開発をすることが重要と考え、NPO法人の他、地域内外の行政・関係機関によるメンバーで検討会を重ね、以下の事業に取り組みました。

3 雪・農・食を活用した体験型ツアー

倶知安の地域資源である雪・農・食を活用した体験型ツアーは、夏・秋のツアーとして、倶知安の特産品であるじゃがいも掘りを体験してもらう「農作業体験ツアー」と、冬のツアーとして豪雪地帯である倶知安を体験してもらう「除雪ボランティアツアー」を企画しました。

農作業体験ツアーは、倶知安の魅力を伝えるチラシを作成し、札幌の旅行会社のダイレクトメールで広く配布したところ、募集開始直後、定員の40名が満員となるほど盛況でした。ツアーでは、参加者に採れたて野菜を使った地元ならではの食を楽しんでもらうよう、収穫したばかりのじゃがいもを使った倶知安の郷土料理である「いもっこ汁」をNPO法人のメンバーが振る舞ったり、収穫したじゃがいもを参加者にお土産に持ち帰ってもらったり、参加者と地元の人が交流する場を持つなど、参加者に楽しんでもらう工夫を行いました。



農作業体験ツアーでのじゃがいも掘りの様子

参加者に対してアンケート調査を実施したところ、75%が「満足・やや満足」という回答で、自由回答には「盛りだくさんでよかった。地域の方やいろいろな方に触れ合えてよかった」という声が聞かれ、通常のツアーでは体験できない地域の人との触れ合いができたことへの評価が高くなっていました。



農作業体験ツアーでの交流会の様子

冬のツアーでは、倶知安の豪雪を体験してもらい、地域の暮らしを知ってもらうため、除雪ボランティアツアーを企画・実施しました。参加者は、ツアーの午前中に地域の人と一緒に除雪ボランティアを行い、作業終了後、地域の方の振る舞う昼食を食べながら地域の人との交流を楽しみました。午後には雪の下に埋められ、糖度の高くなったじゃがいもを掘るという体験を楽しみました。



除雪ボランティアツアーの様子

除雪ボランティアツアーには、受入側から地元の中学生、町内会、行政関係者、民間企業など、さまざまな関係者が参加したことにより、参加者と地域の人達の交流の機会となっていたこと、また、雪の下に埋められたじゃがいもを掘り出すという体験も貴重な機会となり、参加者の満足度が非常に高くなっていました。

4 雪・農・食を活かした新商品開発・販売支援

NPO法人では、2015年に地域特産品として開発した「雪の下じゃがいも」と「雪の下にんじん」のポタージュスープは、年間5,000袋ずつ販売しており、倶知安町のふるさと納税の返礼品にもなっています。

今回、さらに倶知安町のお土産となるような新商品として、倶知安スイーツを開発するため、検討会を重ねました。新商品の開発に向けて、地元のお菓子屋の店主を講師としてお招きし、NPO法人のメンバーが指導を受けながら、いくつものお菓子を試作し、美味しく、かつ倶知安らしさにこだわった商品づくりを目指しました。



新商品を試作している様子

その結果、開発した商品は、じゃがいものスイートポテト餡をパイ生地に敷き、中にイタドリのジャムを入れて焼いたスイーツとし、商品名を、倶知安町のキャラクター「じゃが太くん」をモチーフとした「じゃが太ルト」に決定しました。イタドリは、道端や土手などあちこちに群生する多年生植物で、この上ない厄介者として扱われる植物ですが、栄養価が高く、それをジャムにしてお菓子に使用することで、価値のあるものに変化させることにもつながりました。

開発中の「じゃが太ルト」の評価をするため、令和元年9月20日（金）にニセコ町で開催された日本風景街道大学ニセコ羊蹄キャンパスの参加者を対象に試食アンケート調査を行い、調査の結果を参考に、商品の改良を重ね、「じゃが太くん」をメインキャラクターとした明るい色合いのパッケージデザインに決定しました。



じゃが太ルトの商品パッケージ

5 取り組みによる成果

本事業を通じて得られたノウハウやネットワークをもとに、地域内外の関係機関との連携をすることによって、地域ならではの体験型ツーリズムの企画や新商品開発に継続的に取り組むことが可能となったことが成果として挙げられます。

今後は、地域内の農業関係者や観光関係者及び地域外のさまざまな関係機関と連携し、今回開発した新商品の商標登録を行い、新商品を積極的に広報・PRしていきたいと考えています。これからも、地域ブランドの構築に向けて、雪や農、食を活用した通年の体験型ツーリズムの観光コンテンツの開発や、新商品開発を継続していく予定です。